

医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院

02-03 美術館祭報告・New Face 04 小児言語療法・家族心理教育インストラクター 05 医療マネジメント学会  
06 認知症疾患医療センター・かかりつけ医 07 県民公開講座 08-09 リハビリセンター うれしの秋まつりへ参加して  
10 創立48周年記念式典 11 ボランティア演奏会・オリーブ夏メニュー 12 担当医、理念、基本方針、連絡先等



# 美術館祭に参加して

作業療法士 阿部 数也

3月2日に当院で美術館祭が開催されました。美術館祭は今年で16回目の開催で「芸術療法の過去・現在・未来」をテーマとして講演会とワークショップが催されました。講演会は美術館アーカイブの中から心理士の前川さんが中心となり、当院で初めて絵画療法が開始された時のメンバーの一人であった患者様の絵画をまとめ、考察を加えて発表されました。その後、ワークショップとして、絵画療法、陶芸療法、音楽療法、園芸療法A、園芸療法B、料理教室、コラージュ、連句療法、クラフト、高齢者のものづくりとクリニックでの取り組みについての講義がありました。

私は、園芸療法Bのスタッフとしてワークショップに参加させていただきました。園芸療法Bワークショップは参加者が29名で6つのグループに分かれて実施されました。作業としては、植え替え、花苗の植替え、プランターへの花の寄せ植えがありました。ワークショップは終始、賑やかで話し声や笑い声が途切れませんでした。初めて会った職員同士も多い中、このように盛り上がったのは、まさに「芸術療法の効用」といった感じでした。創設理事長の故中川保孝は「芸術療法とは芸術作品を作ることで芸術性を表現する事でもなく、作品を作る過程で時間をかけ、じっくりと人間関係を醸成させながら言葉の再交流を再び蘇らせ・・・。」とされています。人と人との間にある物や作業は人と人の距離を縮め、コミュニケーションを促進させる効用があることを再認識しました。また、理事長の中川龍治は日本精神障害者リハビリテーション学会のランチョンセミナーにおいて「芸術療法の特徴は病的な側面を処理するのではなく、健康な部分に働きかけ、健康的な力を引き出す治療技法であること」とされています。この潜在する(あるいは残存する)健康能力の発揮には、まず、心身を動かすための刺激(情動の変化をもたらすような刺激)が必要であり、花はその刺激に値するものだと思います。今回の園芸療法Bワークショップでも様々な花が寄せ植えのために用意されていました。参加された方々は花をみながら、自然と花に近づき、目を凝らし、眺め、匂い、どの花が好きだ、どうしたらきれいな寄せ植えになるかなど、いろんなことを考え、同じグループ内で話しをされていました。また、寄せ植えが始まると我先にといわんばかりに花を取りに駆け寄られていました。花という素材が情動を引き起こし、きれい、好きなどの感情を呼びお



こし、それに伴い心身の動きが引き出され(近寄る、目を凝らし眺める、匂う、選ぶ)、さらに、寄せ植え(表現すること)が、思考、手足の動きをより引き出させていたように感じます。これは、寄せ植えをして花をよりきれいに見せたいという欲求にほかありません。この欲求こそが心身を動かすエネルギーだと思います。花という刺激を基に欲求というエネルギーが生み出され、さらに寄せ植えや花を育てるという作業がエネルギーを増幅させ、潜在する能力を発揮させるものとなるのだと思います。また、そのように感じられるワークショップだったように思います。





精神科医 いなば たかよし  
稲葉隆繕

はじめまして、稲葉といいます。4月より精神科医として勤務しております。経歴を簡単に話しますと、研修医後は佐賀大学で2年、唐津の松籟病院で1年、精神科医として働いてきました。まだ4年目に突入したばかりで未熟なところなど多々あると思いますが宜しくお願いします。

趣味というか運動不足予防のため走っています。4月にあったフルマラソンでもなんとか完走してきました。今後も続ける予定ですので、ぜひ皆様と一緒にリレーマラソンなど楽しみましょう！！

## 😊 NEW FACE!



内科医 やまうち こういち  
山内紘一

4月21日より内科医として南3病棟に勤務しております。

昭和15年生まれで福岡市内の病院、島の診療所、老人保健施設などに勤めてきました。

皆様には丁寧に接していきたいと思っております。

よろしくお願い致します。

# ことばのこと相談してみませんか？

ことばについて悩んでいる子、心配な子たちのコミュニケーション支援のために、平成25年1月より言語訓練を立ち上げました。

●対象年齢：4歳から18歳頃

## 言語聴覚士によるトレーニング

ことばによるコミュニケーションに問題がある方に専門的に関わり、問題の本質やメカニズムを明らかにし、対処法を見つけ出します。

必要に応じてトレーニング、助言を行います。



## 小児言語訓練ロゴマークinco

「思いを通わせる方法のひとつである

ことばをはぐくむこと」を願った、相互的コミュニケーション  
(**interactive communication**)

という言葉からきています。



言語聴覚士より

ことばの発達の遅れや発音の不明瞭さなどでお困りの  
子どもさんがいらっしゃいましたらお気軽にご相談ください。

完全予約制のため、まず電話でお問い合わせください

0954-43-0157(代) 児童思春期外来 とまり木

## 家族心理教育

## 認定インストラクターの資格を取得しました！

当院では、統合失調症などの精神疾患だけではなく、認知症や児童思春期の心の悩みをお持ちのご家族を支援するため、様々な家族教室、家族会を実施しています。精神疾患や心の悩みを抱えて日々を過ごすとき、ご本人はもちろんですが、ご家族も大変な悩み、苦悩を持たれています。そんなご家族に少しでも元気になっていただき、日々の中のささやかな幸せを感じていただけるよう、私たちはこれからもご本人、ご家族に関わっていきたいと思っています。

そんなご家族に関わるときの配慮や工夫を学ぶため、当院の精神科医師・谷口研一朗さんと、臨床心理士・山下美和さんが、心理教育・家族教室ネットワーク(JNPF)が主催する研修を受講し、「家族心理教育認定インストラクター」の資格を取得しました。

これからは、インストラクターを中心に院内のスタッフの教育にも力を注ぎ、より良い家族教室、家族会が運営できるようにできればと思っています。

# 日本医療マネジメント学会 第11回佐賀支部学術集会レポート

平成25年2月16日(土曜日)に、唐津市文化体育館において、志田原 哲 会長(唐津赤十字病院院長)のもと、開催されました。

特別講演では九州大学大学院・医療経営管理学教授の尾形裕也先生が、「医療提供体制の長期ビジョンと医療機関経営」と題して、国の施策から今後の医療機関の在り方の考察がなされ、シンポジウムでは、「地域連携を効果的に進めるためには」と題し、地域基幹病院、開業医、訪問看護ステーション、病院地域連携担当者から意見発表があり、地域での実践の効果が窺えた一方、課題も明らかとなりました。

当院からも、

- 倉富一成先生(医局・泌尿器科、医療安全管理担当)が  
「ヒヤリハット報告のノルマ化の効果について考える」
- 松原史香さん(地域生活支援科・臨床心理士)が  
「精神障害者の地域連携を事例を通して考える」
- 楠本伸治さん(東1病棟・看護師)が  
「多職種連携での退院支援における看護師の課題 ～介護保険制度・社会資源活用の知識向上を目指して～」
- 早崎政義さん(栄養管理科・管理栄養士)が  
「神経性無食欲症患者へNSTが関わった一例」
- 今里和敬さん(臨床心理科・臨床心理士)が  
「心理検査の周知と処方簡易化の取り組み」という5題が発表されました。

みなさん、事前の準備からしっかり時間をかけてまとめられていました。発表者のみなさん、お疲れ様でした。来年度は、当院が主管となり、平成26年2月22日に嬉野で開催予定です。職員一同協力して、皆さまをお迎えしたいと思います！

みなさま、是非、嬉野へおいでください！



## 「第2回 佐賀県かかりつけ医 認知症対応力向上研修会」を開催して

3月13日に、鹿島市生涯学習センターエイブルにて、「鹿島・藤津地域リハネットワーク研究会」と共同で開催し160名の方々に参加していただきました。

テーマを「オレンジ手帳を中心とした認知症の地域連携」とし、岐阜県の医療法人静風会大垣病院 院長の田口真源先生を講師としてお招きし、ご講演頂きました。

講演では、認知症の事例を交えた疾患像のほか、日本精神科病院協会（日精協）で取り組まれている認知症医療のクリニカルパスの現状についての話をしていただきました。

日精協では、平成22年より将来ビジョン戦略会議認知症医療検討チームが設置され、認知症の医療の現状の課題と将来に対する提言を行うことを目的とし、そのなかで認知症医療の透明性をはかるためにクリニカルパス（地域連携パス）の作成、検討が行われています。講師の田口先生は岐阜県の認知症疾患医療センターと岐阜県西濃地区のモデル事業として、「地域連携パス」の普及の為に、医療連携（病病連携）、介護連携、多職種連携を行い、その際に「オレンジ手帳」の配布を試み、病院主催の地域交流事業において認知症についての情報を発信するなど、多岐にわたり活動されています。今後の方向性としては、標準的な認知症ケアパス（状態に応じた適切なサービス提供の流れ）を構築することが目標であり、県内にとどまらず、隣県との地域連携の必要性について話されました。

佐賀県においても、「認知症の連携パス」は今後、取り組んでいかなければならない課題の一つです。今回の研修会で学んだことを活かし、認知症の方が、住み慣れた地域や自宅で安心して暮らすことができるよう「地域連携」に取り組んでいきたいと思えます。

認知症疾患医療センターが佐賀県に設置され1年半が経ちます。認知症疾患センターは、認知症の方が住み慣れた地域や自宅で安心して暮らせるよう、認知症の早期診断から適切な介護まで、医療と介護の連携を行いながら認知症になられた方とご家族の支援を目的としています。

その取り組みの一環として、県民の一人ひとりに認知症を正しく理解していただき、認知症の人や家族に対する理解を深めていただくために県民公開講座を開催致します。



- 日 時／平成25年9月21日（土）午後
- 会 場／武雄市文化会館 小ホール
- 参加無料・定員500名

※県民講座の内容については、現在準備中です。

ご意見やご要望がありましたら、認知症疾患医療センターへご連絡下さい。

- お問い合わせは

**0954-43-0003（直通）又は 0954-43-0157（内線1024）**



# 第11回県民公開講座講演会に参加して

平成25年2月17日に社団法人佐賀県放射線技師会主催の県民公開講座に参加して、私は“認知症における栄養士の取り組み”で20分ほど講演をさせて頂きました。その一部を紹介させて頂きます。

## 生活習慣病の予防

- 太り過ぎではありませんか  
あなたのBMIは・・・

体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)

正常範囲

160cm⇒47.4～64kg

165cm⇒50.4～68kg



## 太っているにはワケがある①

- ① 食べるのが早い
- ② 夜食や間食を摂ることが多い
- ③ お腹一杯になるまで食べる
- ④ 野菜不足になっている
- ⑤ 1週間に3回以上揚げ物を摂る



## 太っているにはワケがある②

- ⑥ ほぼ毎日お酒を飲む
- ⑦ 甘いものが止められない
- ⑧ 食事を抜く事がある
- ⑨ イライラすると食べてしまう
- ⑩ 運動習慣がない



## 塩分を摂りすぎていませんか

- 脳血管性認知症を防ぐには  
  血压コントロール
- 高血圧予防には減塩食
- 加工食品・漬物
- 野菜不足(カリウム不足)



## EPAやDHAの働き

- HDLコレステロールの増加
- LDLコレステロールの低下
- EPAは血液を固まりにくくする作用
- DHAは老人斑の形成を予防

## ビタミンC・E

- 抗酸化物質
- ビタミンCを多く含む食品  
  野菜・果物
- ビタミンEを多く含む食品  
  アーモンド 鰻  
  小麦胚芽 植物油



認知症の予防、特に脳血管性認知症は高血圧や脂質異常症・肥満や糖尿病などの生活習慣病の予防が大事といわれています。生活習慣病を発症すれば、脳血管の動脈硬化がすすみ、結果脳血管性認知症の発症率が高くなります。栄養バランスの良い食事を心がけ、生活習慣病を予防していく事が、認知症予防の近道です。生活習慣病の食事療法に共通する事は太り過ぎを無くすことです。自分のボディマスインデックスでふとり過ぎと出たら生活を見直してみましょう。ほぼ毎日お酒を飲む方、お酒にはエネルギーもあります。ビール中ジョッキ2杯で400kcal、ワイン1杯73kcal。

塩分も脳血管性認知症予防に関係しています。血圧が高いと血管にも高い圧力がかかり、動脈硬化をおこし、その結果脳梗塞を起こし易くなります。

脂質の取り方とアルツハイマー病発症との関連性もいくつかの疫学研究で検討されています。EPA・DHAは魚に多く含まれている脂肪酸です。魚油や植物油に含まれる不飽和脂肪酸のほとんどは酸化されやすいので、魚などは鮮度の高い物を選ぶことが必要です。一方、肉や乳製品に多く含まれる脂肪酸でトランス脂肪酸や飽和脂肪酸の過剰摂取はアルツハイマー病の予防には避けたいといわれています。

飲酒と認知機能の低下に関しては色々な説がありますが、アルコールにして20g以下は健康を害さないといわれています。ビール350mlはアルコール17.5g。ワインのアルコール量は様々ですが一般的に150mlで14gです。赤ワインに含まれるフラボノイドはポリフェノールの一種で抗酸化作用(アルツハイマー病の発生に関係あるといわれている酸化ストレスを起こりにくくする作用)があるといわれています。

ビタミンC・Eは先程述べた酸化反応を起こりにくくするといわれ、特にEとCを一緒にとると良いといわれています。CがEの抗酸化作用を高めてくれる為です。ビタミンCは果物に多く含まれますが、水溶性ビタミンなので摂り過ぎても尿に出てしまいます。ビタミンEは老化の原因と考えられている過酸化脂質が作られるのを防げる働きがあり老化防止に役立つことが期待されています。ただ残念ながら証明はされていません。

認知症予防の為の食事に関してはまだまだ不確かな情報が多いのですが、今回色々な文献を読ませていただき生活習慣病の予防は必要だと実感しました。

栄養管理科 島田

# 『地域の偏見は自分たちでなくしていこう!』

— 嬉野温泉秋まつりの道踊りへ参加して —

## 1) 道踊りへ参加するきっかけ

例年8月に嬉野温泉通りで行われるうれしカーニバルのあと、ある利用者の一言から始まりました。「なんで職員は集団で出るとに、患者はいかんと?」「いやあー、これまで飛び入りでの参加はされてたみたいだし、集団がダメってわけじゃないけど…」なるほど、確かにいいアイデアかもしれない! リハビリセンター利用者のほとんどは町内で生活を送られている方たちであり、地域の祭りを自分たちで盛り上げることは当然のことなのです!

## 2) 外部ボランティア講師(藤生会一門)

リハビリセンターの各種プログラムにおいて、いずれは町内からプロ・アマ問わず各分野の講師を招きたいと考えていました。マンネリしがちなプログラムに変化がうまれるだけでなく、リハビリセンターがより地域に根付いたもの、開かれたものになるのではないかと期待からです。

そこに今回、道踊り参加の団体に対し、普段から踊りの先生として活躍されている2名の先生を派遣して頂ける話があり、またとない機会と考え主催者である観光協会へ依頼させて頂きました。

秋まつりを2日後に控えた11月1日、嬉野温泉秋まつり実行委員会からボランティアとして派遣された2名の踊りの先生がリハビリセンターへお見えになり、演目である“嬉野ふれあい音頭”および“嬉野夢音頭”について指導をして頂きました。

お見えになった2名の先生は、初めて接するであろう精神疾患を抱える利用者の方々にも、特別扱いはせずごく普通に熱心に指導をして頂き、当日の道踊り開始直前にも声をかけに来て下さいました。

## 3) 嬉野温泉秋まつり当日

これまでの秋まつりにおいて、病院はもちろん施設・作業所等から、患者様主体の集団参加は初めてとのことで、観光協会としても

「参加して頂くだけで大変ありがたいこと」

「難しく考えずにとにかく楽しんで」

と温かい言葉を頂きました。

当日は秋晴れの快晴で、21名の通所者と4名のスタッフの計25名で道踊りへ参加しました。道踊りの時間が11:30～12:30の1時間と長時間であることを心配していましたが、半数以上が1時間を踊りきられました。僕は沿道での応援兼カメラマンでした…。



## 4) 参加者の感想

道踊り感想について、ある通所者から以下のような言葉がありました。

「これで本当の嬉野町民になれた気がします」

この方は、すでに町内で10年以上アパート生活を送られていますが、短い言葉ながら、自身の病気から世間への引け目や疎外感など、その利用者がこれまで抱えてきた様々な思いの片鱗をうかがい知る一言でした。

その反面、「精神病患者として見られるのが恥ずかしい」「近所の人がいたら病気のことを知られてしまう」といった理由から、道踊りへの参加を断られた方もいらっしゃいます。

地域の祭りに参加、貢献することで自信がついた方の陰で、地域社会からの偏見と同じように通所者自身の心のなかにある“自分は病気である”という内なる偏見について考えさせられました。

今回の道踊りは通所者だけでなくスタッフも共に参加(僕以外は…)させて頂きました。1時間踊り続けることは大変なことであったものの、「このあいだはきつかったねー」と、その後も話しに花が咲きます。

リハビリセンターほほ笑み  
友朋会

## 5) これからのリハビリセンターのあり方

初めての取り組みということもあり手探りでの参加でしたが、“本当の嬉野町民になれた気がする”と、当センターの基本理念である“リハビリ”を感じさせる当事者からの声や、踊りの先生との交流、沿道からの応援の声など、参加して頂いた通所者の感想からも期待以上のものがありました。

嬉野市は、“ひとにやさしいまちづくり”を推奨するユニバーサルデザイン推進地区であり、障がいを抱える方も普通の方も、垣根なく住みよい町であるべきと考えます。精神疾患への偏見は、国や病院がどうかしてくれるのをただ待つのではなく、自分たち自らが町に出て普通の方となんら変わらない姿を見てもらうことでなくなっていくものではないか。そのような主旨のもと、来年は嬉野温泉秋まつりだけでなく、冒頭にもあったうれしカーニバルやアパート単身生活者と地域の清掃活動などの地域行事を毎年の恒例行事とし、地域に根ざしたりハビリセンター、ひいては“ひとにやさしいまちづくり”の実現に貢献していければと考えます。

リハビリセンター 看護師 小池 隆之

# 創立48周年記念式典

平成25年4月6日(土)に当会の創立48周年を記念して式典を開催致しました。

当会において年間を通して最も重要なイベントの一つです。

谷口嬉野市長、石井県議会議長をはじめ多くのご来賓の方々にご出席いただき、ご祝辞やお祝いのお言葉をいただきました。

また、永年勤続職員(10年勤続、20年勤続、30年勤続)が理事長より表彰状を受賞し、勤続15年の意見発表においては、当会の歴史と発表を行う職員それぞれの15年間を重ね合わせて意見を述べられていました。



中川理事長挨拶



江原副院長挨拶



永年勤続の表彰



会場風景



新入職員の自己紹介



30年勤続の皆さん



20年勤続の皆さん



勤続15年意見発表の皆さん



10年勤続の皆さん

# ボランティア演奏会

平成25年1月8日(火)大ホールにて東京都交響楽団のブラス・セクションの有志で結成された金管五重奏団、東京メトロポリタン・ブラス・クインテット5名とチェロ奏者「田中雅弘氏・清水詩織氏」・パーカッション奏者「久一忠之氏」総勢8名によるボランティア演奏会が実施されました。(今回で3回目)演奏会の内容は、昔の曲を交えながら・楽器の紹介等1時間程度の演奏会でした。観賞された約100名の患者さまは普段ききなれないチェロ・金管五重奏・パーカッション演奏を聴き、笑みを浮かべ、大きな拍手を送られていました。「演奏のすばらしさ、音楽のパワーを改めて感じる事ができました。

東京都交響楽団のブラス・セッション有志の皆様すばらしい演奏会を本当にありがとうございました。



## オリーブからのお知らせ

オリーブカフェ&ギャラリーでは、ただいまワンコイン日替わりランチを提供しています。ボリュームもあって大変好評をいただいています。数量限定ですのでお早めにご注文ください。

また、人気のタコライスも復活しましたので、天気の良い日はテラス席でゆっくりお過ごしいただけます。

皆様のご来店をお待ちしています。

(オリーブカフェ&ギャラリースタッフ一同)



日替わりランチ (500円) 一例



タコライス (400円)



0954-43-0330 (電話予約承ります)

# 友朋会の理念 『患者さまのために』

## 基本方針

- 1 患者さま一人ひとりの立場になって、提供すべき医療・福祉を考え実践する
- 2 愛情のある医療・看護・介護・リハビリ・福祉を実践する
- 3 患者さまの退院支援・生活支援・就労支援において更なる向上を図る
- 4 芸術療法を実践する
- 5 治療空間としてアメニティーを重視する
- 6 地域に必要とされる医療を実践する
- 7 認知症への取り組みにおいて地域のリーダーとなれるよう努力する
- 8 児童・思春期の精神医学分野においてその専門性を高める
- 9 院内におけるチーム医療および地域の関係諸機関との連携を強化する
- 10 医療従事者として自己研鑽に精励する

## 職業倫理に基づく行動指針

- 1 患者さまの自己決定権を尊重する
- 2 患者さまが自己の情報を知る権利を保障する
- 3 患者さまがセカンドオピニオンを求める権利を保障する
- 4 患者さまに安全で質の高い医療を提供することに最善を尽くす
- 5 患者さまに医療的な説明を十分に行う
- 6 患者さまに治療に関する同意を確実に得る
- 7 患者さまの「基本的人権」を保障する
- 8 患者さまの尊厳を保つ
- 9 患者さまの終末期医療について理解を深め、その実践に努力する
- 10 患者さまの個人情報を守る

## 診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

\*診療時間 ◎月曜～金曜

◎午前の部/8:30～12:30(第1土曜 8:30～12:30) ◎午後の部/13:30～17:00 ※ただし、水曜、金曜の眼科外来は10:00より開始

\*休診日/第2・3・4・5土曜、日曜、祭日、年末2日、年始3日間

\*予約診療/待ち時間短縮のため、予約診療とさせていただきます。ただし、新患、急患の場合は随時受け付けます。

平成25年5月1日現在

診療科		月	火	水	木	金	土	
精神科	新患	精神科一般	菅高 谷口	三根 吉本 稲葉	谷口	富松 奥	奥 富松 稲葉	担当医
		もの忘れ	吉本・中山	松尾・中山	田中	松尾・田中	吉本・松尾	
		思春期	富松・三根・菅高					
	再来	富松 松尾	田中 谷口	中山 奥	吉本 中山 稲葉	三根 菅高	予約者のみ	
内科		榎	竹下	岡本	林原・榎	跡上	非常勤医師	
泌尿器科	午前	倉富	江原	倉富	江原	倉富	予約者のみ	
	午後	事前連絡	事前連絡	事前連絡	事前連絡	事前連絡		
透析センター		江原・井上	江原・井上	江原・井上	江原・井上	江原	井上	
眼科		崎戸(13時～)		崎戸(10時～)		崎戸(10時～)		
整形外科						非常勤医師 (11時～)		
皮膚科							非常勤医師 (第1・3日診療/第2・4午前の診療)	

\*眼科の診療時間 ◎月曜日 午後のみ13:00～17:00 ◎水・金曜日 午前10:00～12:30 午後13:30～17:00



### 医療法人財団 友朋会

〒843-0394  
佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919  
電話:0954-43-0157  
FAX:0954-43-3440  
E-mail:info@yuhokai.com  
URL:http://www.yuhokai.com/

- 嬉野温泉病院 0954-43-0157
  - 認知症疾患医療センター 0954-43-0003
  - リハビリセンター「ほほ笑み」 0954-43-0194
  - 老人デイケアセンター 0954-43-0233
  - 介護老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900
  - 友朋会介護サービスセンター 0954-20-2531
  - グループホーム 千寿荘 0954-43-0157
  - 就労支援センター「希望」 0954-43-0249
  - 地域連携室 0954-43-0255
  - 小規模多機能ホーム「孝心の里」 0954-43-7550
  - ものわすれメンタルクリニック 092-534-5151
- 〒815-0082 福岡市南区大橋2-19-20ピュアドームエレガント平尾3・4F